

# 演劇で青少年育成20年

## 東山の活動センター



京都市東山区の東山青少年活動センターが初心者を対象に取り組んできた演劇の創作事業「演劇ビギナーズユニット」が、今年で20年の節目を迎えた。演技を通して対話能力を養うことに一役買ってきた。6、7日は事業の意義を考えるシンポジウムがあり、今秋の公演に向けた稽古も近く始まる。同センターは「集団創作の醍醐味を伝えていきたい」としている。

同ユニットは1994年にスタート。参加者はプロの指導を受け、3カ月余りで舞台に立つ。これまで延べ約350人が挑戦した。若者たちは演劇論を通して互いの意見を激しくぶつけ合うことで演技のほかコミュニケーション能力や人間形成を培ってきた。参加を機に演劇界に進んだ者もいるという。

本年度の演劇の演出を担当する劇作家・演出者として、初心者を対象に演劇を作り上げる事業に参加した20期生。11日からは演技の稽古に入る（京都市東山区・東山青少年活動センター）

## 人間的ぶつかり重視

きょう、あすシンポ 意義を考察

出家の田辺剛さん(38) 〓中京区〓は同事業の5期生。「参加したことで視野が広がった。人生の分岐点になった」と語る。

本年度のユニットは5月から始まり、学生や社会人ら16人が脚本の読み方や大道具制作など裏方の仕事を学んだ。今年には劇作家野田秀樹さん作「贗作・桜の森の満開の下」を8月31日と9月1日に公演することにし、配役を決めた。7月11日からは本格的な稽古に入る。

事業が始まった当時から若者を見続けてきた同センターの西田尚浩所長(56)は「昔は演劇一筋というタイプが多かった。演劇を通じて人間的なぶつかり合いを大切にしてほしい」と話す。

6日のシンポは演出家らが発言者を務め、演劇が果たした役割や事業の意義を振り返る。7日は演技やダンスの体験、制作や舞台監督の仕事学ぶワークショップなどがある。東山青少年活動センター ☎075(541)0619。

(生田和史)